

ロングセラー商品に学ぶ、ビジネスの勘所(第33回)

「チョコモナカジャンボ」のわずかで大きな工夫

2021.08.23



世界中から集まった選手たちの熱戦が繰り広げられた東京五輪は8月8日に閉幕しました。競技の様子はもちろんですが、それとともに話題となったのが、関係者の日本での体験でした。限られた中ではありましたが日本を体験し、多くの取材記者を引きつけたのが日本のコンビニです。豊富な品ぞろえと食品のクオリティーの高さがSNSなどを通じて発信されました。

そうした中である記者が「最高のアイス」と評し、世界中から共感のコメントが寄せられたのが森永製菓の「チョコモナカジャンボ」です。1972年に発売を開始し、以降50年近くにわたり愛され続けているアイスクリームです。

森永製菓は、アメリカから帰国した森永太郎が「日本に西洋菓子を普及させる」との理念の下、1899年に森永西洋菓子製造所を設立したのが始まりです。1918年には日本で初めてチョコレートの一貫製造に成功し、ミルクチョコレートを発売します。以降、バニラチョコレート、ピーナッツチョコレートなどさまざまなチョコレート菓子を開発し、1914年に発売を開始したミルクキャラメルと併せてチョコレートを主軸として事業を展開します。

戦前、日本の冷菓市場はアイスキャンデーなどの氷菓が中心でした。しかし戦後になると大手乳業会社がアイスクリームの製造を始め、1950～1960年代の冷凍冷蔵庫の普及と相まって、口当たりの柔らかいアイスクリームが人気を博するようになります。

そこで、日本におけるチョコレート製造のパイオニア的存在である森永製菓が“森永だからできるアイス”として開発したのが「チョコモナカ」でした。風味豊かなバニラアイスを入れた板チョコ形のモナカの皮で包み、その皮の内側をチョコレートでコーティング。他のアイスクリームとは違う、見た目も味も森永製菓ならではのアイスクリームを演出しました。こうして1972年、「チョコモナカ」は発売されます。

「チョコモナカ」の発展形である「チョコモナカジャンボ」は現在、森永製菓の主力商品であるばかりでなく、単品アイスクリーム市場でトップシェアを誇る大人気商品になっています。しかし、「チョコモナカ」の発売当初は、順調な売り上げを見せてはいたものの、大ヒットまでには至りませんでした。1980年にはバニラアイスの中にチョコレートソースを入れてデラックス仕様にモデルチェンジし、名称を「チョコモナカデラックス」と改めて売り出しますが、売り上げは大きくは変わりません。

状況が変わり始めたのは1996年です。この年に大きなリニューアルを行い、バニラアイスの中に入れていたチョコレートソースを板チョコにしました。また、モナカの皮の山を12山から18山に増やします。サイズが大きくなったので、名前も「チョコモナカジャンボ」に変更しました。さらに1998年には決定的ともいえる改良が行われました。

「最高のアイス」のカギは食感… 続きを読む